

農作物の生育概況等について

1 気象経過

10月上旬は平均気温がかなり高く、日照時間も多くなったが、10月中旬の日照時間は少なく経過した。10月23日には、庄内地域で降雹・降霰が確認された。

2 主な農作物の生育状況

(1) 水 稲

- 農林水産省から10月12日に公表された水稲の作柄概況（9月25日現在）によると、予想収穫量は10a当たり628kg（全国第1位、前年622kg）と見込まれ、県全体の作況指数は104の「やや良」となっている。地域別の作況指数は、村山地域104、最上地域103、置賜地域102、庄内地域105となっている。
- 10月29日に公表された品質検査結果（9月30日現在）の1等米比率は、うるちの県平均で94.8%（前年同期95.2%）となっている。

(2) 大 豆・そ ば

- 大豆は、主力品種の「里のほほえみ」の収穫作業が行われている。収量は平年並からやや多いと見込まれる。
- そばは、収穫終盤となっている。収量は平年並からやや多いと見込まれる。

(3) 果 樹

- 西洋なし「ラ・フランス」の収穫盛期は10月10日～15日頃となり、予冷品は10月25日から販売されている。糖度が高く、食味良好となっている。
- りんご「ふじ」の収穫が始まっている。着色がやや遅れているものの、糖度が高く食味は良好となっている。
- かき「平核無」の収穫は、平年並の10月20日頃から始まっているが、10月23日に庄内地域で降雹・降霰があり、一部で果実の打撲等の被害が確認されている。
- 西洋なし、りんご、かきは、4月の霜の影響で着果量が少なく、さらにりんごでは小玉傾向でサビ果や変形果の発生が平年より多くなっている。



かきの打撲痕（赤枠）



りんごのサビ果

(4) 野 菜

- きゅうりのハウス抑制栽培は、例年並みの9月上旬から収穫盛期となり、現在収穫終盤である。
- ねぎは、例年並みに9月上旬から収穫盛期に入り、現在、収穫終盤となっている。品質は良好である。

(5) 花 き

- ・ 施設花きでは、ばら、アルストロメリア等の収穫が続き、品質は概ね良好である。ストックは花芽分化の前進と10月前半の高温により、例年より14日程度早い10月下旬から出荷が本格化している。

3 当面の主な技術対策、農作業安全、新型コロナウイルス感染症対策

〈大 豆〉丁寧な選別・調製の徹底

〈果 樹〉西洋なし「ラ・フランス」の厳選出荷、りんご「ふじ」等晩生品種の適期収穫と厳選出荷

〈野 菜〉ねぎ等の適期収穫の徹底、促成山菜類の穂木収穫や根株掘り上げの実施

〈花 き〉ストックの適期収穫の徹底とさくら「啓翁桜」の促成室の準備

〈農作業安全〉農作業事故防止のための基本的な対策の確認、徹底

〈感染症対策〉体調チェックやマスク着用など、新型コロナウイルス感染症対策の徹底